

集団遊び 活動例（計画案）

（１）療育活動名 フルーツバスケット

（２）ねらい

- ① 遊びのルールを理解し、集団遊びであるフルーツバスケットを楽しむことができる
- ② 「おに」へのインタビューを通して、他児の話に注目することができる

（３）準備（もの・場）

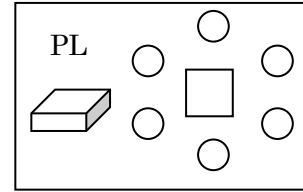
梨・林檎・柿各１個 ＋ 一口サイズ爪楊枝付き（人数分）

果物首かけ絵カード（３種類×５枚くらい）

果物場絵カード（３種類＋フルーツ盛合×５枚くらい）

チーム決めのくじ引き

椅子（人数分） 爪楊枝ごみ入れ



（４）活動の流れ

時間	活動	活動の留意点	支援の留意点・遊びの視点
3分	1 場所を自由に選び、椅子に座って待つ		
10分	2 秋の果物を見て、試食し、遊びへの興味をもつ	・果物を食べながら、声かけする「今日はこれを使って遊びます。遊びたい人！」 ・子どもに果物を試食させ、何の果物か当てるクイズをする	・おいしそうに食べる様子を見せる（模倣遊び） ・試食でなんの果物か当てさせる。（偶然遊び）
5分	3 チーム決めをする	・くじ引きでチーム決めをする ・一人ひとり順番に「すきな」果物を選ばせ、絵カードを首にかける	・チームを決めるくじを引かせる。（偶然遊び）
3分	4 ルール説明を聞く	・モデリングをしながら説明する 【ルール】 ① PLから引いたカードを見せながら果物の名前を言う ② 移動する際、布を一旦踏む ③ 座ることができたらカードにシールを貼ってもらう ④ 「おに」はPL、もしくは他児から質問やインタビューを受ける ・一度練習をやってみる	※場合によってモデリングに参加させる（模倣遊び） ・ルールの理解が難しい子に、スタッフが直接支援する
20分	5 ゲームをする	・「おに」がカードを引く＆言う→すわる→シール→「おに」インタビュー→「おに」がカードを…のサイクルについて、子どもたちの楽しみ具合、ルールの理解具合をみながら繰り返す ※飽きているようだったら「なんでもバスケット」（〇〇の人！）へバージョンアップする	※参加に抵抗感がある子は、無理せず見学してよいこととする（自由な遊び） ・話に注目しているかを観察し、直接フォローする ※場合によってはインタビューアにさせる
10分	6 ゲームを振り返る	・獲得したシールを数え、勝敗を確認する ・多い子から順番に、インタビューして感想を得ながら果物を食べる 【感想インタビュー】 Q：楽しかったか？ Q：どうして楽しかったのか？ ・まとめとして、「おに」になった他児が話していたインタビュー内容をクイズ形式で出題し、よくできていた子を賞賛する	・チーム対抗とし、正確に勝敗を決める（競争遊び） ・まとめとして「ルールを守ると楽しい」を感じ取らせたい

